

大草谷津田いきものの里 自然観察会

クモはおもしろいぞ！ パート1

山下 美佐子（東金市）

日 時：2015年9月6日（日）10時30分～12時 天気：曇り

参加者：24名（大人16名・子ども8名）、指導員：6名

担当指導員：田島正子 山下 美佐子

不安定なお天気が続いていたので、参加者は少ないかな？とと思っていましたが、題名に興味をそそられたのか、24名もの親子の方たちなどが集まりました。初めに、生きものはよく観察したら元いた場所へ帰す、別の場所から生き物を持ち込まないなど観察会の約束、スズメバチ・イラガなどのドクガ・マムシなどの注意をし、クモの話を開始です。ホワイトボードにクモはどんな形？と参加者の子どもに書いてもらって、



昆虫とクモの体の作りの違い、雄と雌の見分け方を図で示し、クモの糸の使い分け、エサの捕り方、造網性と徘徊性のクモがいることを話しました。また、クモは種類により網の形が決まっていることを写真で示しました。観察のポイントとして、「網の形をよく見ること」、クモは環境との結びつきが強いので、「どんな場所にクモがいたか」を意識するように話し、最後に「危険な虫クイズ」を行い、カバキコマチグモとセアカゴケグモの生態を伝え、大草以外でも注意してくださいと呼びかけました。

指導員は霧吹きを持ち、参加者にはカップレンズを持ってもらい、クモ観察会のスタートです。まず、乾いた草地で卵をお腹につけて守っている徘徊性のクモ「ウヅキコモリグモ」を見つけて観察。そこへ調度、ナガコガネグモの網にチョウが引っ掛かってしまい、すぐチョウを糸でぐるぐる巻きにしてみました。クモがどこから糸を出すのか、どうやって獲物を捕らえるかをしっかりと観察できました。暗い林の中に入ると、円網に枯葉を吊り下げているハツリグモを発見。子どもたちが葉っぱを触ると、小さなクモが顔をのぞかせていました。「葉っぱはクモのお家なんだね」と子ども達。あまりクモは好きではないと言った子が、霧吹きを貸してあげると、他の場所でも霧吹きでハツリグモを発見。それからジョロウグモ・オオシロカネグモ・コガタコガネグモ・カタハリウズグモなどを次々に発見していき、霧吹きの魔力？で、クモ研究者になってしまいました。大人はクサグモの白い多面体の卵のうを観て、美しさに感嘆の声を上げていました。田んぼではナガコガネグモを枝に乗せ、ゆすって落とすと、クモがしおり糸を伝ってスルスルと枝に戻るのを観察。「この糸はクモの命綱なんだよ」と田島さん。最後に生態系のピラミッド図で、クモの役割について話し、観察会を締めくくりました。参加者の感想は、「苦手だったクモを見直した」、「クモの工夫を知った」、「クモは意外と面白い」、「短い距離に多くのクモがいた」などの感想をいただきました。